

『方言』

もうすぐ6月。いよいよ梅雨へ向かって季節が進みます。4月から日本で学校や仕事を始めた外国人の皆さんは、宮崎での生活や日本語に少し慣れてきましたか？

日本語には、敬語や丁寧語を始め、女性語、男性語などたくさんのパターンがあり、それらを使い分けるのが難しく、特に方言、いわゆる宮崎弁に関しては、標準的な日本語を学んでいても全く理解できない言葉やフレーズも多いのではないのでしょうか。また、県が違えば方言も異なりますので、実は日本人にとっても他県の方言は理解できないことが多いのです。

【方言の発達】

他の国にも地方特有の言葉や発音があるようですが、日本では、県や地域によって実にたくさんの方言や訛り、アクセントやイントネーションに様々な特徴が見られ、それらの違いからその話し手がどの地域の人なのかを推測することもできます。また、宮崎のように縦に長い県では、同じ県でも南北で微妙な言葉の違いがあったりします。



山や山脈、川や溪谷、そして海峡など、豊かな自然に囲まれた日本では、古代の昔は遠距離の移動は困難であったため、狭い地域のコミュニティの中で話し言葉が発達していきました。

そして江戸時代（17世紀から19世紀の約265年間）になると、藩というまとまりで人々は厳しく管理され、更に自由な移動が制限されていたせいで方言もその藩内で独自に発達していったと言われていきます。例えば、都城地域はかつて鹿児島県の薩摩藩に属していたため、今でも鹿児島弁に近いイントネーションや言葉が残っているのはそのためです。

【宮崎の方言】

では、代表的な宮崎弁を少しご紹介しましょう。

「てげ」・・・とても

「てげぬきー」（とても暑い）

「てげてげ」・・・適当に、そこそこ

「てげてげでいっちゃが」（適当でいいですよ）

「よだきい」・・・面倒くさい、億劫だ



また、語尾に「ちゃ」の変形が付くなどの特徴もあります。

「～ちゃ」・・・～なんですね

「花子さんは宮崎出身やっちゃ」（花子さんは宮崎出身なんですね）

「～ちゃが」・・・～ですよ

「宮崎にはいい人が多いっちゃが」（宮崎にはいい人が多いですよ）

【最後に】

方言は田舎臭いと思う人も多いですが、その地域の人柄や生活が反映されたとても貴重な話し言葉です。方言を使うことで地元の人達との距離もぐんと縮まりますので、時には宮崎弁も使ってみてください。

「宮崎弁はてげおもしろいっちゃが！」

このコーナーへのご質問、ご意見、ご要望は：（公財）宮崎県国際交流協会

TEL 0985-32-8457 FAX 0985-32-8512 E-mail miyainfo@mif.or.jp